



日立産業用コンピュータ

HF-W7500モデル30

セットアップガイド

(Windows Server® 2008 R2 SP1編)

ユーザーズ マニュアル

日立産業用コンピュータ

HF-W7500モデル30

セットアップガイド
(Windows Server® 2008 R2 SP1編)

マニュアルはよく読み、保管してください。

- ・ 操作を行う前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。
- ・ このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近なところに保管してください。

ユーザーズ
マニュアル

この製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。
なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

2011年 7月 (第1版) WIN-3-0084 (廃版)
2015年 4月 (第2版) WIN-3-0084-01

- このマニュアルの一部または全部を無断で転写したり複写したりすることは、固くお断りいたします。
- このマニュアルの内容を、改良のため予告なしに変更することがあります。



安全にお取り扱いいただくために

装置を操作する前に、以下に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

- 装置の操作は、このマニュアル内の指示、手順に従ってください。
- 装置やマニュアルに表示されている安全に関する注意事項は特に注意を払い、必ず守ってください。
これを怠ると、人身上の傷害や装置を含む財産の破損を引き起こす恐れがあります。
- 安全に関する注意事項は、下に示す見出しによって表示されます。これは安全警告記号と「危険」、「警告」、「注意」、および「通知」という見出し語を組み合わせたものです。



これは安全警告記号です。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用いられます。起こりうる傷害または死を回避するために、このシンボルの後に続く安全に関するメッセージに従ってください。



危 険：死亡または重大な傷害を引き起こす可能性が高い差し迫った危険の存在を示すのに用いられます。



警 告：死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用いられます。



注 意：軽度の傷害または中程度の傷害を引き起こす恐れのある潜在的な危険の存在を示すのに用いられます。

通 知：これは、装置の重大な損傷または周囲の財物の損害（データの喪失を含む）を引き起こす恐れのある潜在的な危険の存在を示すのに用いられます。また、使用上のアドバイスに用いられます。

なお、「留意事項」という見出し語は、人身の安全と直接関係しない注意書きを示すのに用いられます。

- マニュアルに記載されている以外の操作は行わないでください。装置について何か問題がある場合は、保守員をお呼びください。
- 装置を操作する前に、このマニュアルをよく読み、書かれている指示や注意を十分に理解してください。
- このマニュアルは、必要なときすぐ参照できるように、使いやすい場所に保管してください。
- 装置やマニュアルに表示されている注意事項は、十分に検討されたものでありますが、それでも、予測を超えた事態が起こることが考えられます。操作に当たっては、指示に従うだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。



安全にお取り扱いいただくために（続き）

1. 共通的な注意事項

以下に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

1. 1 警告または 注意

- この装置は、人命に直接関わる安全性を要求されるシステムに適用する目的で製造されたものではありません。このような用途に使用する可能性がある場合には、弊社営業窓口へ相談してください。
- 万一、発煙・異臭などがあった場合は、装置背面の主電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜いて、お買い求め先または保守員に連絡してください。故障状態のままお使いになると火災や感電の原因になります。
- この装置の前面および背面には、吸排気孔のためのスペースを必ず確保してください。温度上昇による故障または短寿命の原因になります。また、保守作業のための保守スペースが必要です。
- この装置は磁気ディスク装置を内蔵していますので、打撃、衝撃、振動を与えないよう取り扱いってください。万一、この装置を落したりケースを破損したりした場合は、装置背面の主電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜いて、保守員に連絡してください。そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。また、開梱時および持ち運ぶときは衝撃を与えないでください。故障の原因になります。
梱包状態または開梱時の移動には、指をはさんだり、ぶつけたりしないように注意してください。
- この装置が万一故障したり誤動作やプログラムに欠陥があったりした場合でも、ご使用されるシステムの安全が十分に確保されるよう、保護・安全回路は外部に設け、人身事故・重大な災害に対する安全対策などが十分確保できるようなシステム設計としてください。



安全にお取り扱いいただくために（続き）

1. 2 通知

- 弊社（情報制御システム社）指定の基本ソフトウェアを使用してください。それ以外の基本ソフトウェアを使用した場合の動作は、保証できません。
- この装置の設置環境は一般事務室レベルです。じんあいの多い所や、腐食性ガスのある環境での使用は避けてください。故障の原因になります。
- 非常遮断（シャットダウンしないで、いきなり電源を切ったり、ブレーカを切ったりすること）をすると、処理プログラムによってはジャーナル情報の消失によってシステムプログラムの再ローディングが必要になることがあります。何らかの異常が発生し緊急に遮断しなければならないとき以外は、絶対に実施しないでください。
- 電源の供給元で電源を遮断した場合、システムを自動で復旧できないことがありますので、注意してください。
- ディスクへのアクセス終了後は、ディスクをDVDドライブから取り出してください。
ディスクをDVDドライブ内へ放置したままにすると、障害の原因となります。
- ディスクトレイを出したままにしておくと障害の原因となります。
使わないときは、ディスクトレイをDVDドライブに収納しておいてください。

はじめに

このマニュアルは、日立産業用コンピュータHF-W7500モデル30（Windows Server® 2008 R2モデル）のセットアップ手順について記述したものです。

このマニュアルは、次のような構成となっています。

第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順

第2章 仮想環境を構築する場合のセットアップ手順

第3章 新たにシステムを構築する場合の新規セットアップ手順

第4章 注意事項

注 意

この装置は障害の種類によって、大切なファイルを消失することがあります。また、装置の障害だけでなく、使用中の停電、誤操作などによってファイルを消失することがあります。このような状態になった場合には、ファイルの回復はできません。そのような事態に備えて日常業務の中にファイルのセーブ作業を組み入れ、計画的にファイルのバックアップを取っておいてください。

<記憶容量の計算値についての注意>

- 2ⁿ計算値の場合（メモリ容量・所要量、ファイル容量・所要量など）

1KB（キロバイト）＝1,024バイトの計算値です。

1MB（メガバイト）＝1,048,576バイトの計算値です。

1GB（ギガバイト）＝1,073,741,824バイトの計算値です。

- 10ⁿ計算値の場合（ディスク容量など）

1KB（キロバイト）＝1,000バイトの計算値です。

1MB（メガバイト）＝1,000²バイトの計算値です。

1GB（ギガバイト）＝1,000³バイトの計算値です。

<商標について>

- ・ Microsoft®、Windows®、Windows Server®、Hyper-V™ は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ 上記以外にこのマニュアルに記載されている他社製品名（ソフトウェア、ハードウェア）は、各社の登録商標、商標、または商品です。

目次

 安全にお取り扱いいただくために	S-1
第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順	1-1
1. 1 セットアップ手順の概要	1-2
1. 2 セットアップの準備	1-3
1. 3 Windows Server® 2008 R2, Standard Editionのセットアップ	1-4
1. 4 画面の設定	1-5
1. 5 自動更新の設定	1-11
1. 6 ネットワーク環境の設定	1-13
1. 7 ハードディスクの空き領域のフォーマット	1-18
第2章 仮想環境を構築する場合のセットアップ手順	2-1
2. 1 セットアップ手順の概要	2-2
2. 2 仮想環境のインストール	2-3
2. 3 Hyper-V™のインストール	2-4
2. 4 仮想マシンのインポート	2-8
2. 5 ゲストOSのセットアップの準備	2-11
2. 6 ゲストOSのセットアップ	2-12
2. 7 Windowsのライセンス認証	2-16
第3章 新たにシステムを構築する場合の新規セットアップ手順	3-1
3. 1 新規セットアップ手順の概要	3-1
3. 2 セットアップの準備	3-3
3. 3 システムディスクの出荷状態への復元	3-4
3. 4 Windows Server® 2008 R2, Standard Edition、画面の設定などの各種セットアップ	3-8
第4章 注意事項	4-1
4. 1 第3者ブランド名での製品出荷について	4-1

第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順

この章では、以下のセットアップ手順について説明します。

- HF-Wを購入して初めて電源を投入した場合のセットアップ手順

留意事項

このマニュアルで使用する用語について、以下のとおり定義します。

セットアップ：ソフトウェアがコンピュータで使用できるように環境を設定することです。

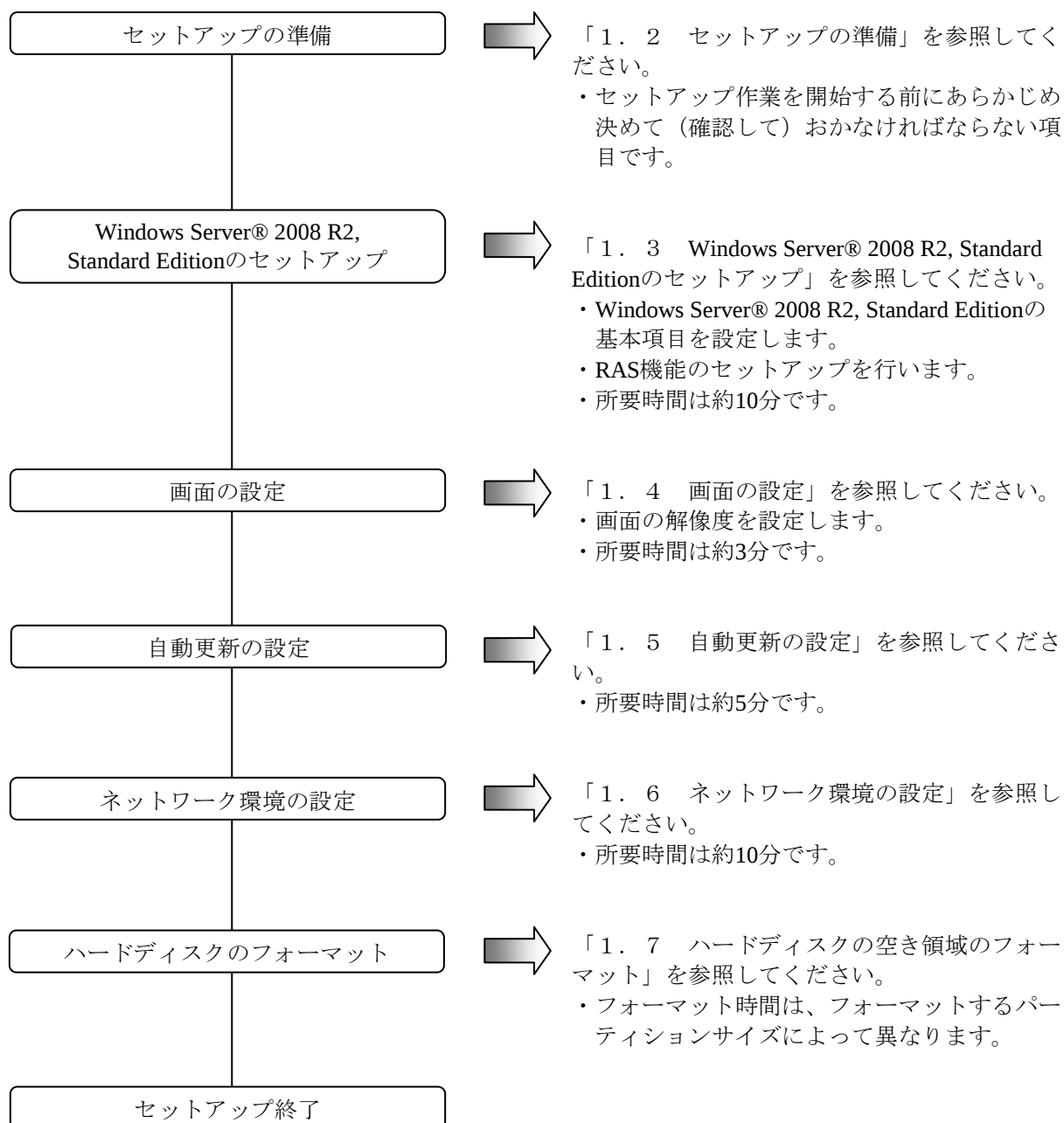
インストール：ソフトウェアをDVD、CD-ROM、フロッピーディスクからコンピュータのハードディスクに組み込むことです。

1. 1 セットアップ手順の概要

以下に、プレインストールされたMicrosoft® Windows Server® 2008 R2, Standard Editionのセットアップ手順を示します。

HF-Wに同梱のDVDを使用した新規セットアップ手順については、「第3章 新たにシステムを構築する場合の新規セットアップ手順」を参照してください。

以下に設定の概略フローを示します。



1. 2 セットアップの準備

下記の項目は、セットアップ作業中に必要となる項目です。セットアップ作業を開始する前にあらかじめ決めて（確認して）おいてください。

項目	内容
ライセンス証書	HF-W本体にライセンス証書が貼り付いていることを確認してください。
Administratorのパスワード	Administratorのパスワード 設定後に変更できます。
ネットワークアドレス	IPアドレスおよびサブネットマスク 設定後に変更できます。

留意事項

Administratorのパスワードを設定する際、以下の条件を満たす必要があります。

- ・ 6文字以上であること。
 - ・ 半角英文字の大文字および小文字、数字、記号の4種類から3種類を使用すること。
 - ・ ユーザーアカウント名やユーザー名として使用されている文字列の一部を使用すること。
-

1. 3 Windows Server® 2008 R2, Standard Editionのセットアップ

Microsoft® Windows Server® 2008 R2, Standard Editionをセットアップします。

(1) 基本環境の設定

以下の手順で基本環境を設定してください。

① コンピュータの電源を入れます。

「サービスを開始しています。」のメッセージが表示されます。その後、自動的に再起動を行います。再起動後しばらくすると、Windows Server® 2008 R2, Standard Editionのセットアップ画面が表示されます。

② ライセンス契約画面が表示されますので、契約内容をよく読んでから「**ライセンス条項に同意します**」チェックボックスをオンにして、**【開始】ボタン**をクリックします。

③ Administratorのパスワード変更を要求する画面が表示されますので、**【OK】ボタン**をクリックします。

④ パスワードの入力画面が表示されますので、**【新しいパスワード】**および**【パスワードの確認入力】**にパスワードを入力して**【Enter】**キーを押下するか**【→】**をクリックします。

なお、設定するパスワードは以下の条件を満たす必要があります。

- ・6文字以上であること。
- ・半角英文字の大文字および小文字、数字、記号の4種類から3種類を使用すること。
- ・ユーザーアカウント名やユーザー名として使用されている文字列の一部を使用すること。

⑤ パスワード変更完了画面が表示されますので、**【OK】ボタン**をクリックします。

その後、自動的にログオンします。

⑥ ログオン後、初期構成タスク画面が表示されますので、画面右上の**【×】ボタン**をクリックして画面を終了し、次ページ以降のセットアップを続行します。

次回起動時にこの画面を表示しない場合は、「**ログオン時にこのウィンドウを表示しない**」チェックボックスをオンにして画面右上の**【×】ボタン**をクリックして画面を終了します。

留意事項

この装置では、確実な障害解析を行うために、システムエラー（ブルースクリーン）発生時に完全メモリダンプを収集するように設定しています。この設定は、システムの再起動後に有効になります。

1. 4 画面の設定

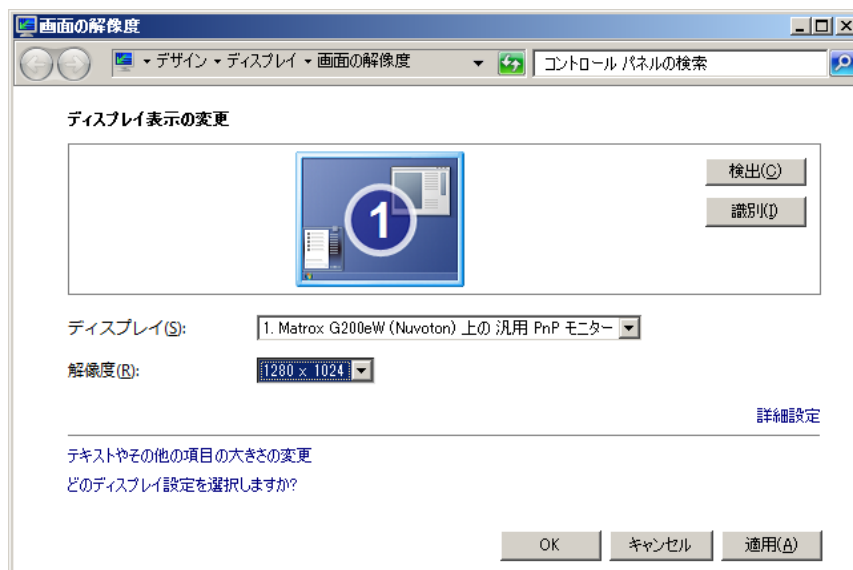
内蔵ビデオをご使用の場合は、「(1) 内蔵ビデオの画面設定」を実施してください。このとき、デスクトップ上に表示されている【Option_Video_SETUP】アイコンは必要ありませんので、削除してください。オプションビデオボードをご使用の場合は、「(2) オプションビデオボード選択時の画面設定」を実施してください。

(1) 内蔵ビデオの画面設定

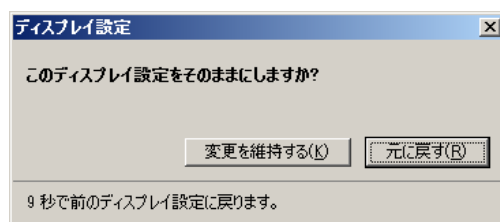
- ① コンピュータの管理者でログオンしていない場合には、コンピュータの管理者でログオンします。
- ② デスクトップ上で右クリックしてポップアップメニューを表示し、【画面の解像度】をクリックします。
- ③ 【画面の解像度】画面が表示されます。



- ④ 画面の解像度を設定し、【OK】ボタンをクリックします。



- ⑤ 「ディスプレイ設定」画面が表示されますので、この設定を保存する場合には「変更を維持する」ボタンをクリックしてください。設定しない場合には「元に戻す」ボタンをクリックして再度設定してください。

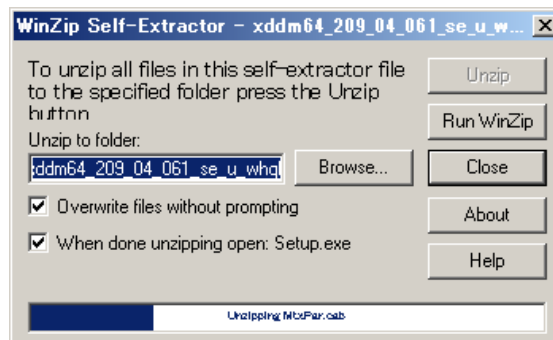


(2) オプションビデオボード選択時の画面設定

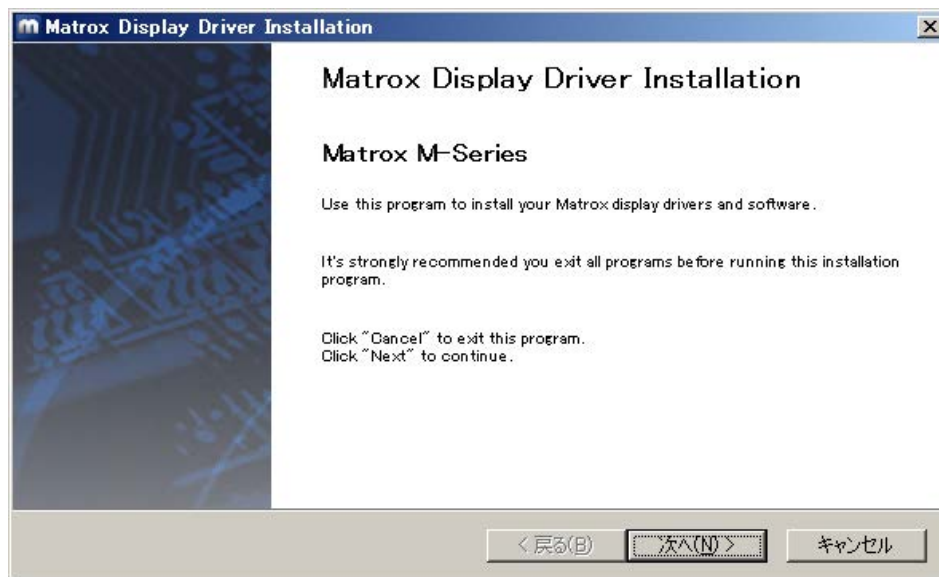
- ① デスクトップ上に表示されている [Option_Video_SETUP] アイコンをダブルクリックします。



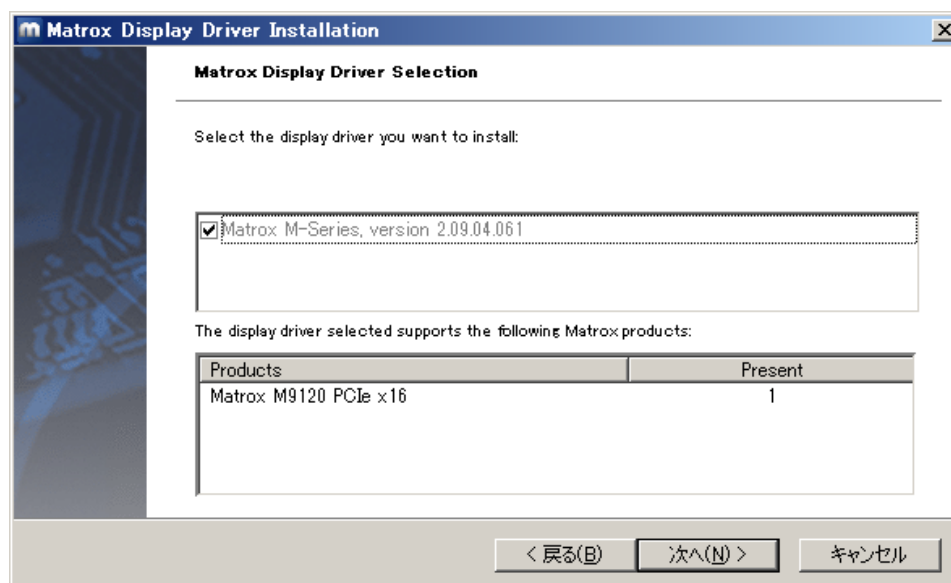
- ② 以下の画面が表示され、ファイルの圧縮解凍が実行されます。



- ③ [Matrox Display Driver Installation] 画面が表示されますので、[次へ] ボタンをクリックします。



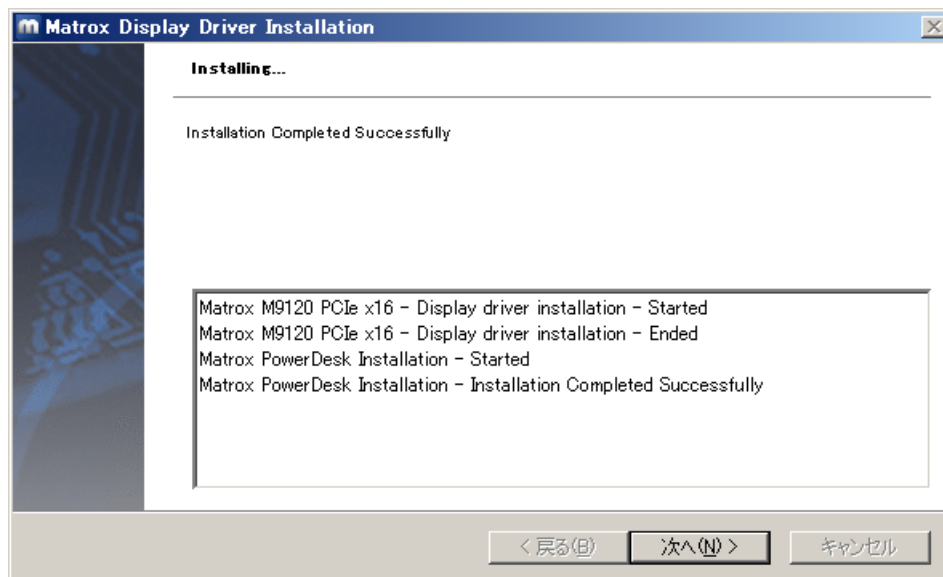
- ④ 「Matrox Display Driver Selection」画面が表示されますので、[次へ] ボタンをクリックします。



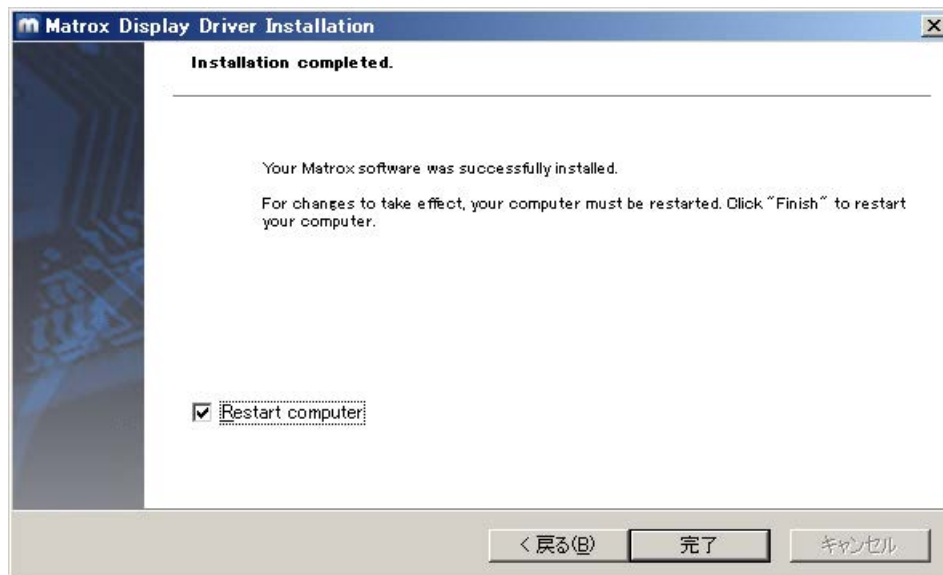
- ⑤ 「Ready to Install」画面が表示されますので、[次へ] ボタンをクリックします。



- ⑥ 「Installation Completed Successfully」画面が表示されましたら、[次へ] ボタンをクリックします。



- ⑦ 再起動を促す画面が表示されますので、**「完了」ボタン**をクリックして再起動してください。再起動後の画面の設定については、「日立産業用コンピュータ HF-W7500モデル30 取扱説明書（マニュアル番号 WIN-2-0059）」の「3.12 オプションビデオボード選択時の画面の設定方法」を参照してください。



1. 5 自動更新の設定

Windows Server® 2008 R2には、不具合修正モジュールの自動更新機能が備わっています。これは、マイクロソフト社のWebサイトに不具合修正モジュールが公開された場合、それを自動でダウンロードおよびインストールする機能です。

ただし、この機能が動作することによって実行中のアプリケーションに影響を与えることがあります。また、自動更新した修正モジュールが実行中のプログラムに影響を与える恐れもあります。したがって、この機能は“無効”にしてください。

以下に自動更新機能を無効にするための設定手順を示します。

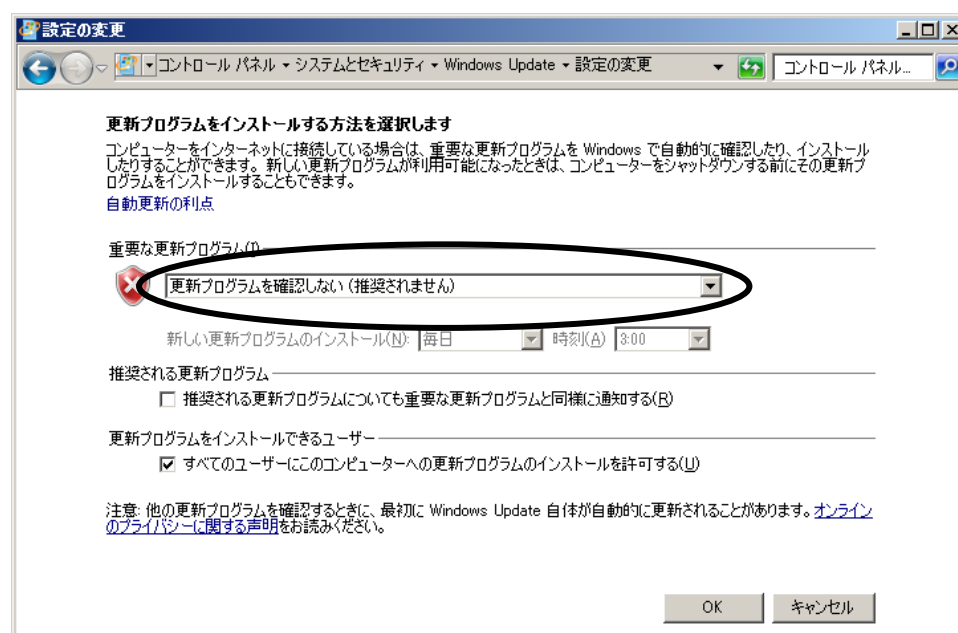
- ① コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- ③ [コントロールパネル] 画面が表示されますので、[システムとセキュリティ] をクリックします。
- ④ 続いてWindows Updateにある [自動更新の有効化または無効化] をクリックします。



- ⑤ Windows Updateの画面が表示されますので、「設定の変更」をクリックします。



- ⑥ 更新プログラムをインストールする方法を選択する画面が表示されますので、「更新プログラムを確認しない(推奨されません)」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。



- ⑦ [システムとセキュリティ] 画面の右上の [×] ボタンをクリックします。

1. 6 ネットワーク環境の設定

ローカルエリアネットワークの設定は、デフォルトではDHCPを使用する設定（「IPアドレスを自動的に取得する」）になっています。DHCPを使用しないでIPアドレスを設定する場合には、「（1）ネットワーク環境の設定」の手順で設定してください。

なお、ここで説明するのはインターネットプロトコルバージョン4（TCP/IPv4）を使用する場合の手順です。インターネットプロトコルバージョン6（TCP/IPv6）を使用する場合は、手順⑧で「インターネットプロトコルバージョン6（TCP/IPv6）」を選択して設定してください。

また、オプションの2ch LANボード（HJ-7617-41）をご使用の場合は、「（2）2ch LANボードの設定」も実施してください。

（1）ネットワーク環境の設定

- ① コンピュータの管理者でログオンしていない場合には、コンピュータの管理者でログオンします。
- ② **【スタート】ボタン**をクリックし、**【コントロールパネル】**をクリックします。
- ③ ネットワークとインターネットにある**【ネットワークの状態とタスクの表示】**をクリックします。
- ④ ネットワークと共有センターが表示されますので、左のペインから**【アダプターの設定の変更】**をクリックします。
- ⑤ **【ネットワーク接続】画面**が表示されます。
- ⑥ **【ローカルエリア接続】アイコン**をダブルクリックします。
- ⑦ **【ユーザーアカウント制御】画面**が表示される場合は、**【はい】ボタン**をクリックします。

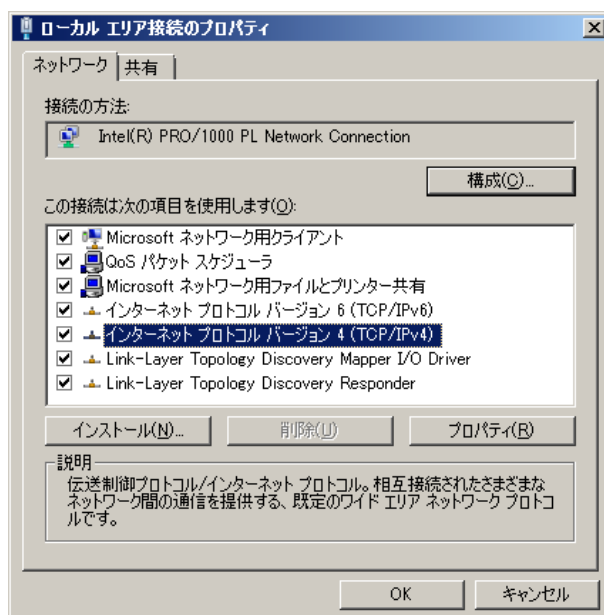
留意事項

【ローカルエリアの接続】アイコンが複数ある場合には、以下の手順でアイコンとイーサアダプタのポートを対応付けてください。

- ・ **【ローカルエリア接続】アイコン**をダブルクリックし、**【ローカルエリア接続のプロパティ】画面**の**【ネットワーク】タブ**をクリックします。
 - ・ **【構成】ボタン**をクリックし、**【Intel(R) PRO/1000 PL Network Connectionのプロパティ】画面**の**【リンク速度】タブ**をクリックします。
 - ・ **【アダプタの識別】ボタン**をクリックし、**【アダプタの識別】画面**の**【開始】ボタン**をクリックします。
 - ・ 選択した**【ローカルエリアの接続】アイコン**に対応したイーサアダプタのポートのLEDが点滅します。
-

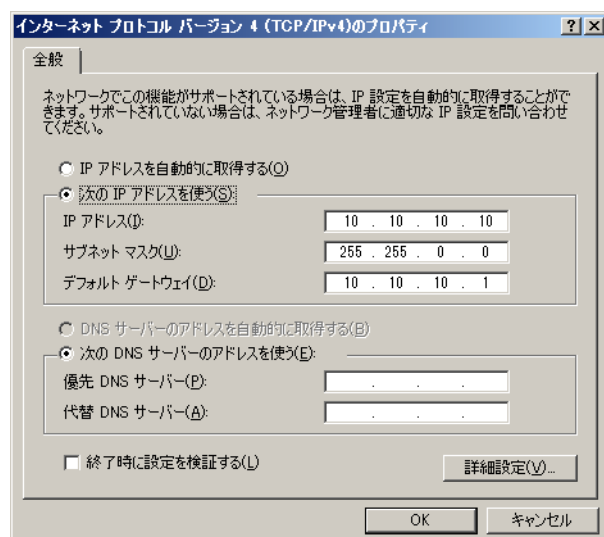
⑧ [ローカルエリア接続のプロパティ] 画面が表示されます。

- ・「インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)」を選択して、[プロパティ] ボタンをクリックします。



⑨ [インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4) のプロパティ] 画面が表示されます。

- ・「次のIPアドレスを使う」を選択して、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力します。
- ・[OK] ボタンをクリックします。



⑩ 開いている画面を閉じます。

- ・[ローカルエリア接続のプロパティ] 画面の [閉じる] ボタンをクリックします。
- ・[ネットワーク接続] 画面右上の [×] ボタンをクリックします。

(2) 2ch LANボードの設定

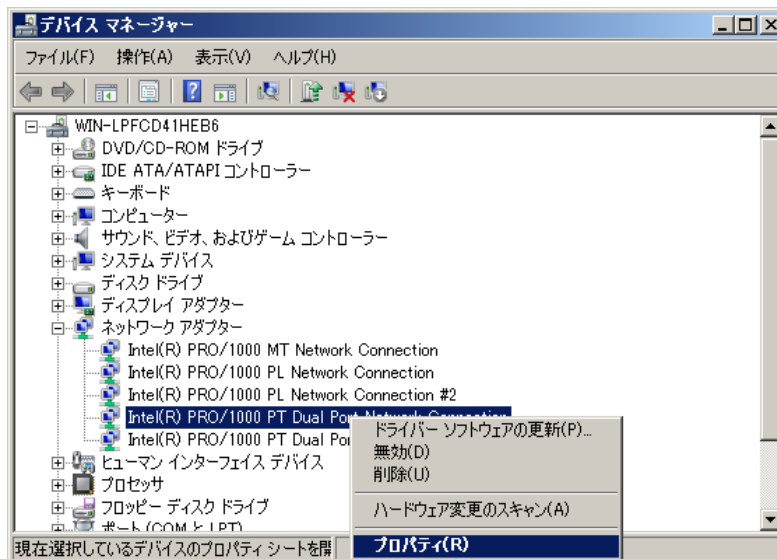
オプションの2ch LANボード（HJ-7617-41）をご使用の場合は、以下の設定を行ってください。

- ① コンピュータの管理者でログオンしていない場合には、コンピュータの管理者でログオンします。
- ② [スタート] ボタンをクリックし、[コントロール パネル] をクリックします。
- ③ [コントロール パネル] 画面が表示されます。
 - ・ [システムとセキュリティ] をクリックします。
 - ・ システムにある [デバイス マネージャー] をクリックします。

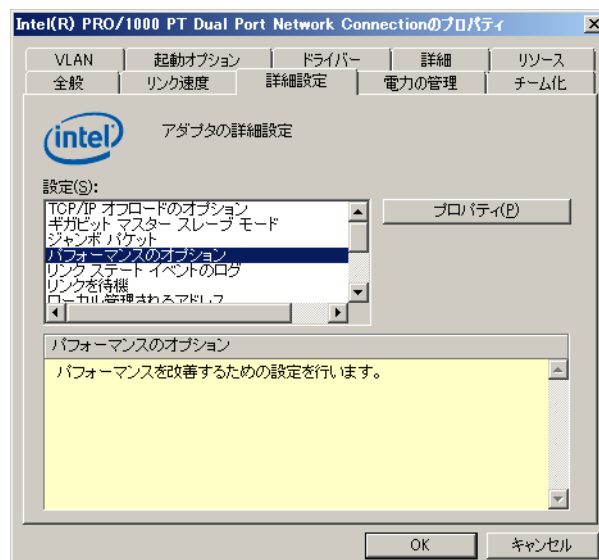


- ④ [ユーザーアカウント制御] 画面が表示される場合は、[はい] ボタンをクリックします。

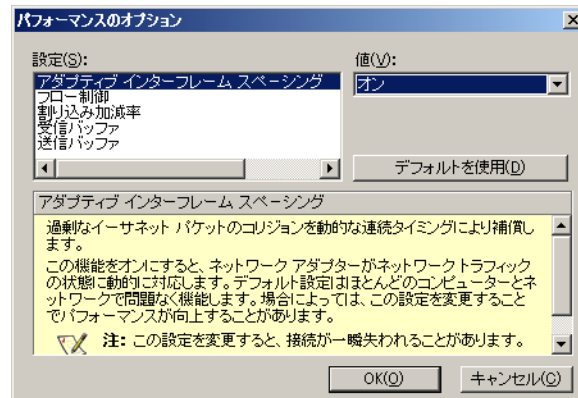
- ⑤ [デバイス マネージャー] 画面が表示されます。
- ・ [ネットワーク アダプター] をダブルクリックします。
 - ・ アダプタのリストから [Intel(R) PRO/1000 PT Dual Port Network Connection] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。



- ⑥ [Intel(R) PRO/1000 PT Dual Port Network Connectionのプロパティ] 画面が表示されます。
- ・ [詳細設定] タブをクリックします。
 - ・ [設定] から [パフォーマンスのオプション] を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。



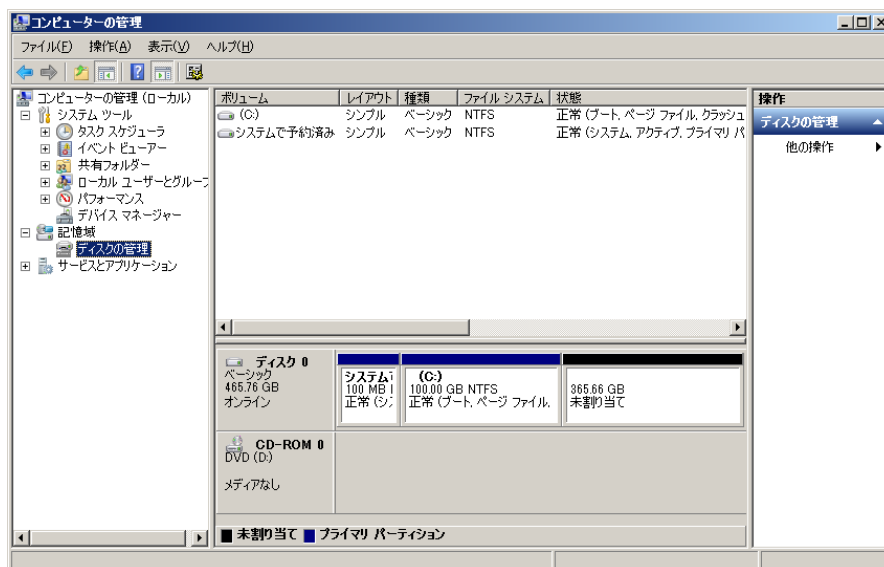
- ⑦ [パフォーマンスのオプション] 画面が表示されます。
- ・ [設定] から [アダプティブ インターフレーム スペーシング] を選択し、[値] から [オン] を選択します。
 - ・ [OK] ボタンをクリックします。



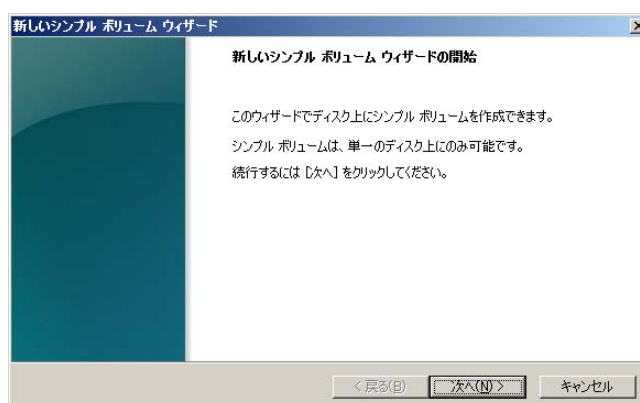
- ・ [Intel(R) PRO/1000 PT Dual Port Network Connectionのプロパティ] 画面の [OK] ボタンをクリックします。
- ⑧ ⑤～⑦をすべての「Intel(R) PRO/1000 PT Dual Port Network Connection」に対して実施します。
- ⑨ [デバイス マネージャー] 画面の [×] ボタンをクリックし、[デバイス マネージャー] 画面を閉じます。
- ⑩ [システムのプロパティ] 画面の [OK] ボタンをクリックし、[システムのプロパティ] 画面を閉じます。

1. 7 ハードディスクの空き領域のフォーマット

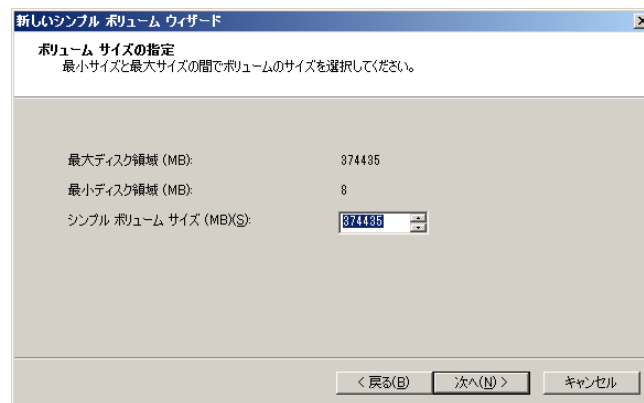
- ① コンピュータの管理者でログオンしていない場合には、コンピュータの管理者でログオンします。
- ② [スタート] ボタンをクリックし、[管理ツール] – [コンピューターの管理] をクリックします。
- ③ [コンピューターの管理] 画面が表示されますので、「記憶域」の「ディスクの管理」をクリックします。



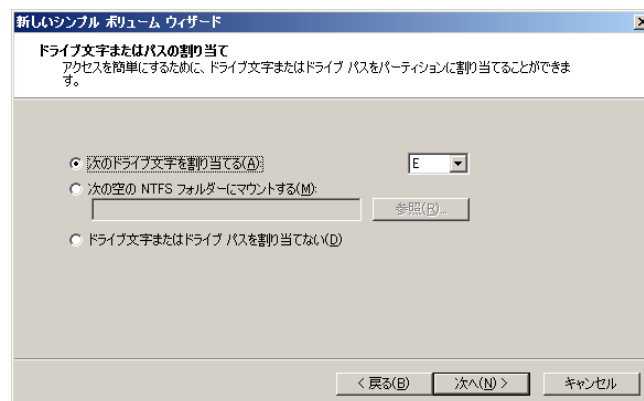
- ④ 「未割り当て」と表示されている部分でマウスを右クリックし、表示されたメニューから [新しいシンプルボリューム] をクリックします。新しいシンプルボリュームウィザードが起動されますので [次へ] ボタンをクリックします。



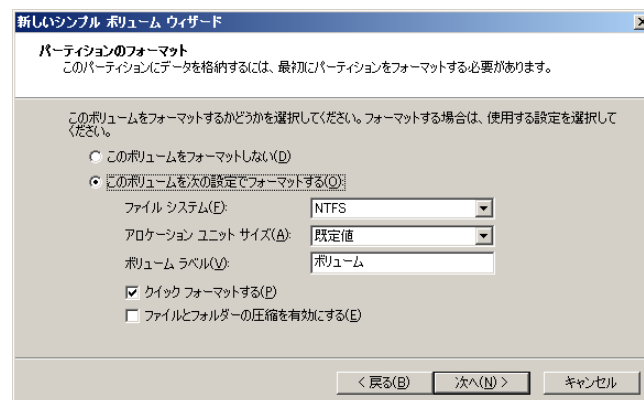
- ⑤ ボリュームのサイズを指定する画面が表示されますので、任意のボリュームサイズを指定して「次へ」ボタンをクリックします。



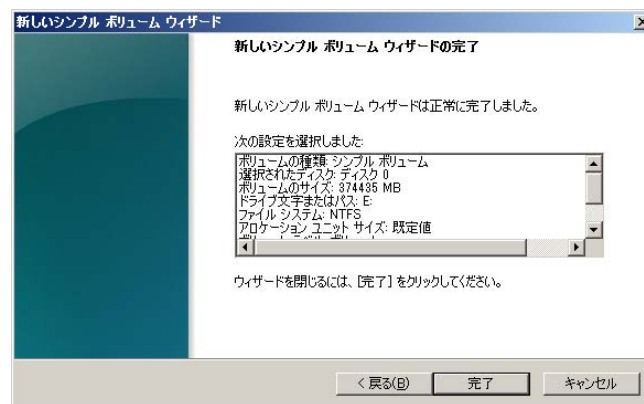
- ⑥ ドライブ文字またはパスの割り当てをする画面が表示されますので、「次のドライブ文字を割り当てる」を選択してドライブ文字を割り当て（変更する必要がない場合は、デフォルトのままでも可）「次へ」ボタンをクリックします。



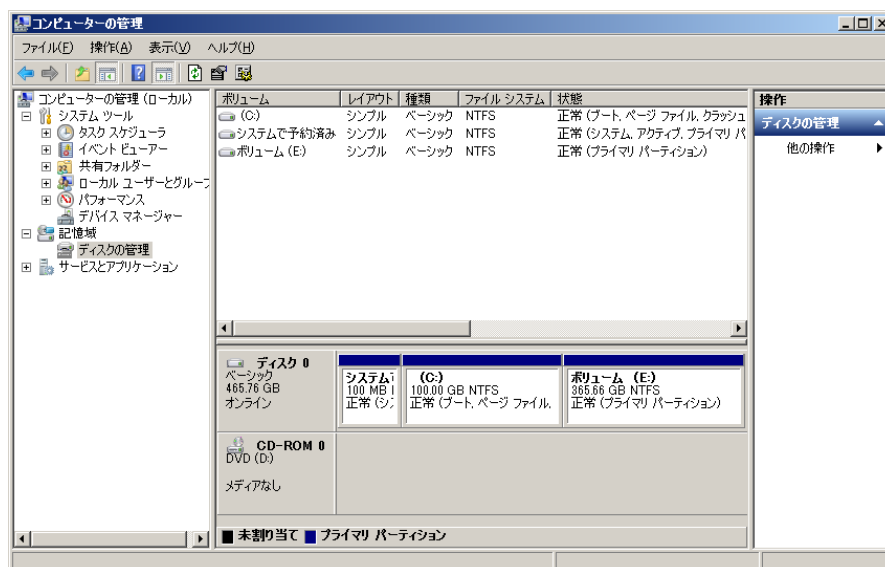
- ⑦ パーティションのフォーマット設定を行う画面が表示されますので、「ファイルシステム」を「NTFS」とし、「ボリュームラベル」に任意のボリュームラベルを入力して「次へ」ボタンをクリックします。



- ⑧ [新しいシンプルボリュームウィザードの完了] 画面が表示されますので [完了] ボタンをクリックします。
- ・ディスクのフォーマットが始まります。



- ⑨ パーティションのフォーマットが完了すると作成したパーティションに「正常」と表示されます。



- ⑩ [コンピューターの管理] 画面右上の [×] ボタンをクリックし、画面を閉じます。

第2章 仮想環境を構築する場合のセットアップ手順

この章では、以下のセットアップ手順について説明します。

- ・初めて仮想環境を構築する場合のセットアップ手順

留意事項

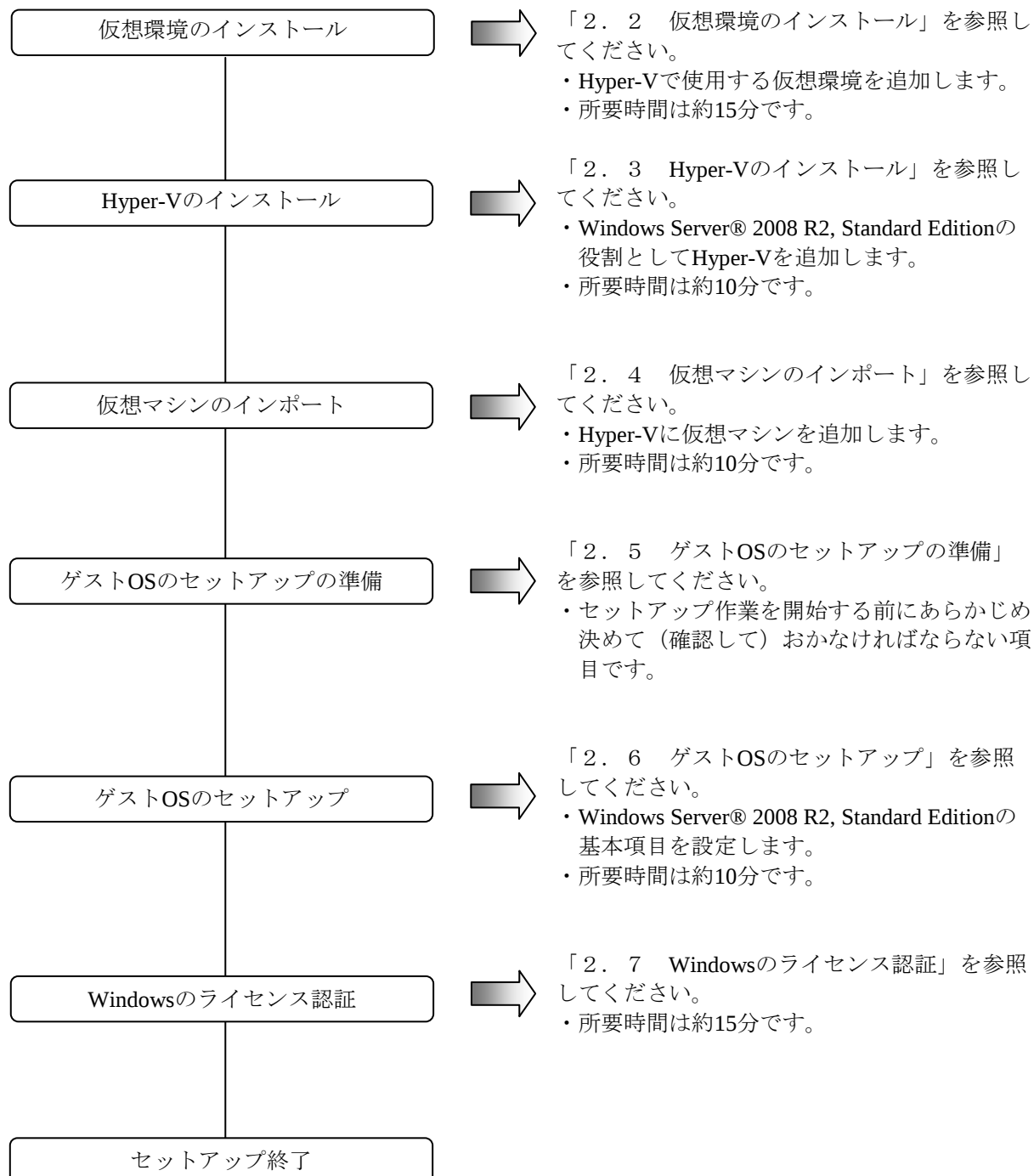
このマニュアルで使用する用語について、以下のとおり定義します。

- セットアップ : ソフトウェアがコンピュータで使えるように環境を設定することです。
- インストール : ソフトウェアをDVD、CD-ROM、フロッピーディスクからコンピュータのハードディスクに組み込むことです。
- 仮想マシン : Hyper-V™（以降、Hyper-V）により提供される仮想ハードウェア環境です。
- ゲストOS : 仮想マシン上で動作するオペレーションシステムです。
-

2. 1 セットアップ手順の概要

以下に、プレインストールされた仮想マシン(ゲストOS : Microsoft® Windows Server® 2008 R2, Standard Edition)のセットアップ手順を示します。

以下に設定の概略フローを示します。



2. 2 仮想環境のインストール

以下の手順に従い、Hyper-V で使用する仮想環境をインストールしてください。

留意事項

“C:¥Virtual Machine¥WS08R2”以下に仮想環境をインストールします。

既にHyper-Vで“C:¥Virtual Machine¥WS08R2”以下のファイルを仮想マシンとして構築し使用している場合、本インストール作業により上書きしますので、必要に応じてバックアップを取得してください。

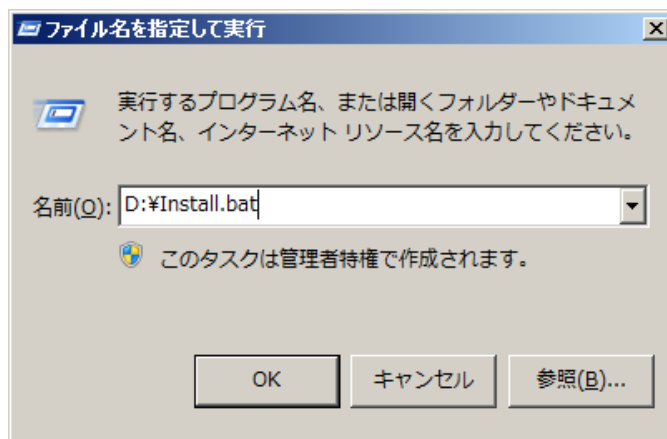
① コンピュータの管理者でログオンしていない場合には、コンピュータの管理者でログオンします。

② セットアッププログラムを起動します。

- ・「HF-W Hyper-V Image DVD For Windows Server® 2008 R2 SP1 /Japanese」と記載されているDVDをDVDドライブに挿入します。
- ・ [スタート] ボタンをクリックして表示されるメニューから [ファイル名を指定して実行] を選択します。
- ・ 名前のボックスに以下を入力して [OK] ボタンをクリックします。

D:¥Install.bat

ここでは、DVDドライブをDドライブであると仮定していますが、上記下線部にはDVDドライブのドライブ文字を入れてください。



③ インストール確認のダイアログが表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。

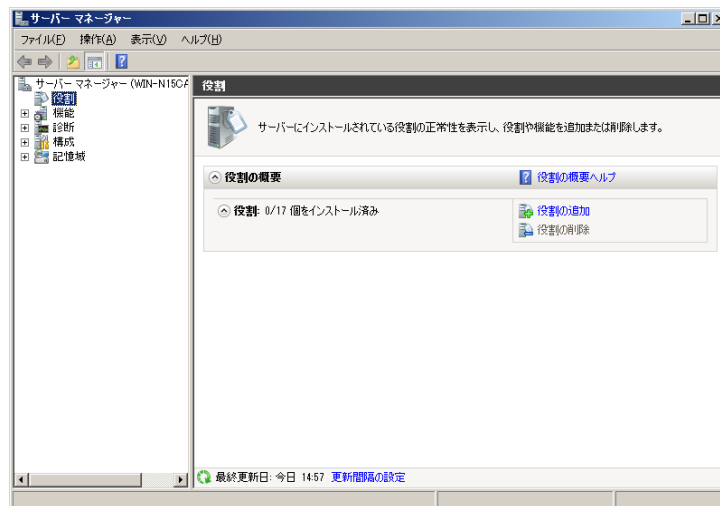
④ インストールが完了すると、完了メッセージを表示しますので、何かキーを押してください。
ウインドウが閉じ、インストールは完了です。

以上でインストールは完了です。

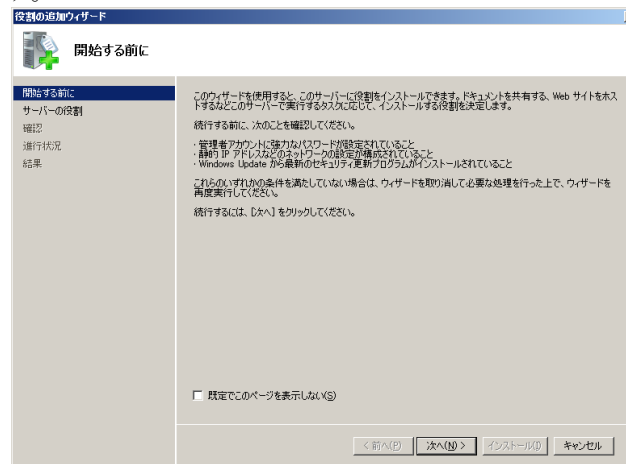
2. 3 Hyper-Vのインストール

以下の手順でHyper-Vをインストールしてください。

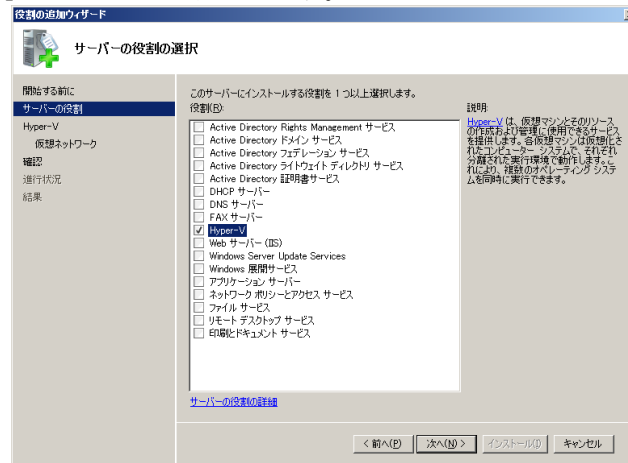
- ① [スタート] ボタンをクリックし、[管理ツール] – [サーバーマネージャー] をクリックします。
- ② 「役割」をクリックし、表示された画面内の「役割の追加」をクリックします。



- ③ 「役割の追加ウィザード」の「開始する前に」画面が表示されますので、[次へ] ボタンをクリックします。



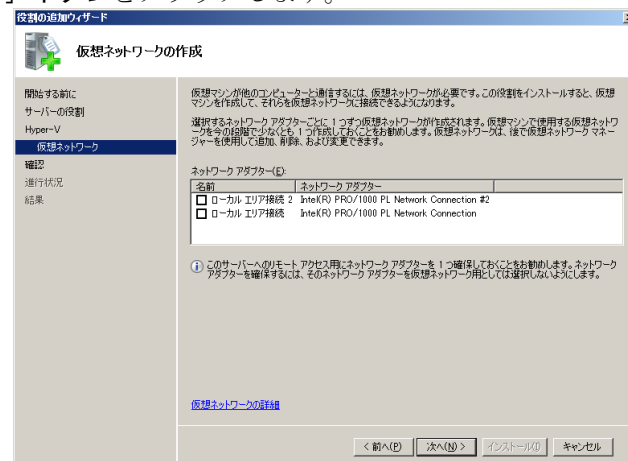
- ④ 「サーバーの役割の選択」画面が表示されますので、「Hyper-V」のチェックボックスをオンにして「次へ」ボタンをクリックします。



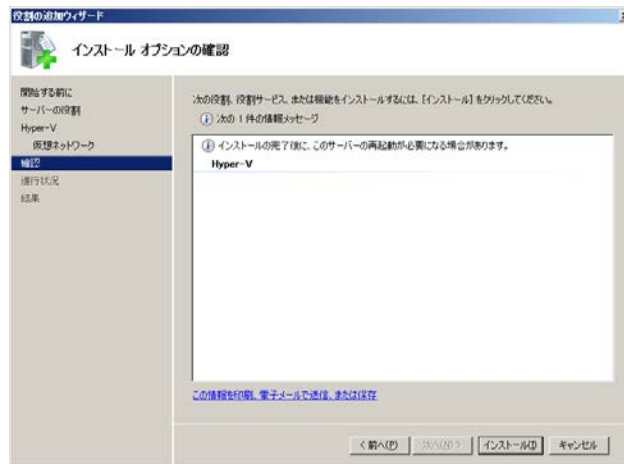
- ⑤ 「Hyper-V」画面が表示されますので、「次へ」ボタンをクリックします。



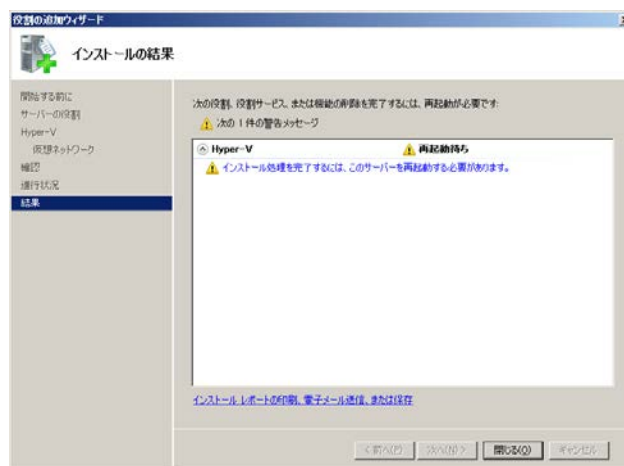
- ⑥ 「仮想ネットワークの作成」画面が表示されますので、仮想マシンが他のコンピュータと通信する場合は仮想ネットワーク用に使用するネットワークアダプターのチェックボックスをオンにして「次へ」ボタンをクリックします。



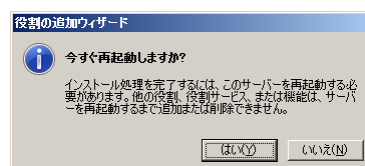
- ⑦ 「インストール オプションの確認」画面が表示されますので、[インストール] ボタンをクリックします。（インストール処理が開始します）



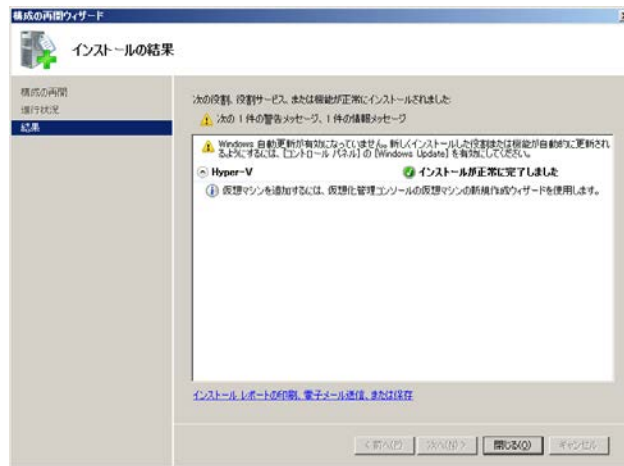
- ⑧ 「インストールの結果」画面が表示されますので、[閉じる] ボタンをクリックします。



- ⑨ 再起動を促すメッセージが表示されますので、[はい] ボタンをクリックして再起動してください。（インストールが完了するまで再起動を数回繰り返します。）



- ⑩ 再起動後、「インストールの結果」画面が表示されますので、[閉じる] ボタンをクリックします。



- ⑪ インストール完了後、[サーバーマネージャー] に [Hyper-V マネージャー] が追加されます。



- ⑫ [サーバーマネージャー] 画面右上の [×] ボタンをクリックして画面を終了します。

2. 4 仮想マシンのインポート

以下の手順で仮想マシンをインポートしてください。

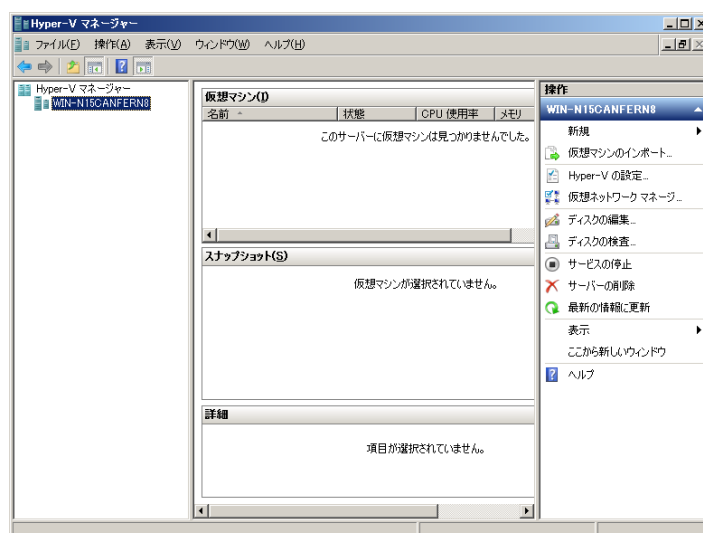
留意事項

既に構築していた仮想環境を破棄して新たに仮想環境を構築する場合、Hyper-Vマネージャーからインポート済みの仮想マシンを削除してから仮想マシンをインポートしてください。

仮想マシンの削除時、仮想ハードディスクファイルも必ず削除してください。仮想ハードディスクファイルはデフォルトでは以下のファイルです。

“C:¥Users¥Public¥Documents¥Hyper-V¥Virtual Hard Disks¥HITACHI_VM_WS08R2.vhd”

- ① [スタート] ボタンをクリックし、[管理ツール] – [Hyper-V マネージャー] をクリックします。
- ② 「操作」の「仮想マシンのインポート」をクリックします。

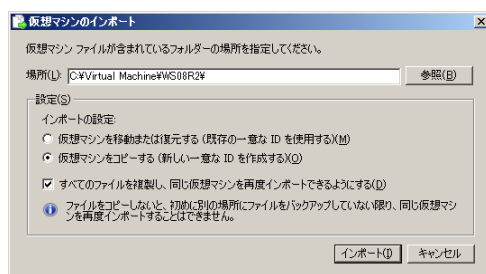


- ③ 「仮想マシンのインポート」ダイアログが表示されますので、「場所」および「設定」を以下の設定に変更して[インポート] ボタンをクリックします。

場所: "C:\Virtual Machine\WS08R2"

設定: 「仮想マシンをコピーする(新しい一意なIDを作成する)」ラジオボタンを選択する。

「すべてのファイルを複製し、同じ仮想マシンを再度インポートできるようにする」のチェックボックスをオンにする。

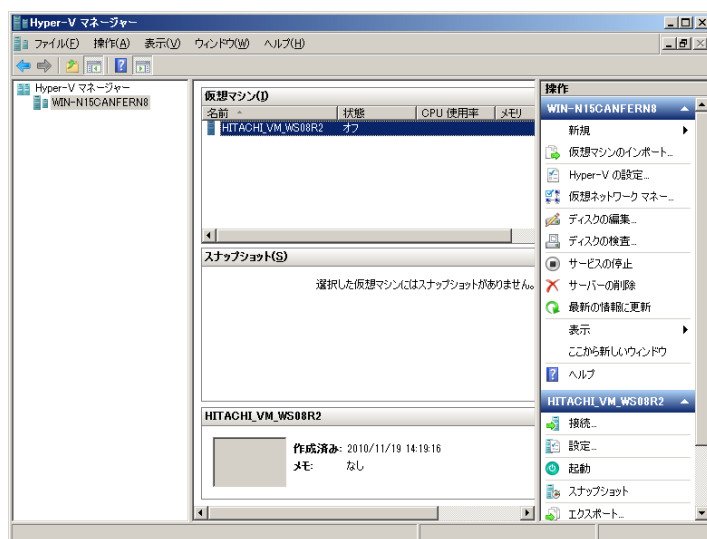


留意事項

「すべてのファイルを複製し、同じ仮想マシンを再度インポートできるようにする」のチェックボックスをオンにしないで仮想マシンのインポートを行った場合、「場所」で指定したフォルダー以下のファイルが直接使用されます。

“C:\Virtual Machine\WS08R2”以下のファイルをバックアップしていない場合、仮想マシンを初期状態に戻すことが出来なくなりますので、「すべてのファイルを複製し、同じ仮想マシンを再度インポートできるようにする」のチェックボックスをオンに設定してインポートすることを推奨します。

- ④ インポート終了後、[Hyper-V マネージャー] に仮想マシン“HITACHI_VM_WS08R2”が追加されます。



留意事項

インポートした仮想マシンの設定は全てデフォルトの設定になっています。そのため、ご使用になる環境に応じて仮想マシンの設定を変更してください。

- ⑤ [Hyper-Vマネージャー] 画面右上の [×] ボタンをクリックして画面を終了します。

2. 5 ゲストOSのセットアップの準備

下記の項目は、ゲストOSのセットアップ作業中に必要となる項目です。セットアップ作業を開始する前にあらかじめ決めて（確認して）おいてください。

項目	内容
ライセンス証書	HF-W本体にライセンス証書が貼り付いていることを確認してください。 ライセンス証書に記載の”Virtual Key”が示すプロダクトキーを確認してください。
Administratorのパスワード	Administratorのパスワード 設定後に変更できます。

留意事項

Administratorのパスワードを設定する際、以下の条件を満たす必要があります。

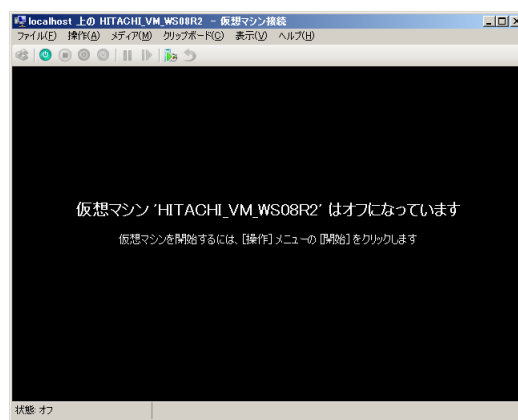
- ・ 6文字以上であること。
 - ・ 半角英文字の大文字および小文字、数字、記号の4種類から3種類を使用すること。
 - ・ ユーザーアカウント名やユーザー名として使用されている文字列の一部を使用すること。
-

2. 6 ゲストOSのセットアップ

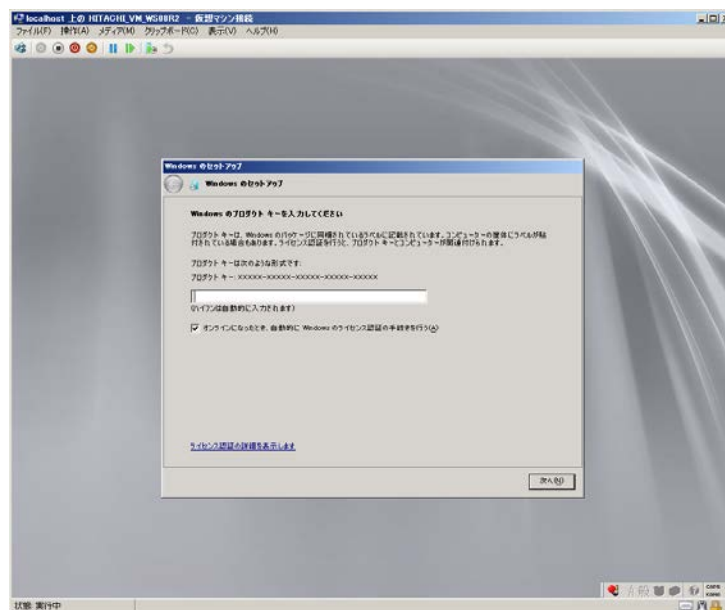
Microsoft® Windows Server® 2008 R2, Standard Editionをセットアップします。

以下の手順で仮想マシンを起動、および基本環境を設定してください。

- ① **【スタート】ボタン**をクリックし、**【管理ツール】**－**【Hyper-V マネージャー】**をクリックします。
- ② 仮想マシン”HITACHI_VM_WS08R2”を右クリックし、表示されたメニューから**【接続】**ボタンをクリックします。
- ③ 仮想マシン接続画面が表示されますので、**【操作】**メニューの**【開始】**をクリックします。
Windows Server® 2008 R2, Standard Editionのセットアップが自動で開始します。



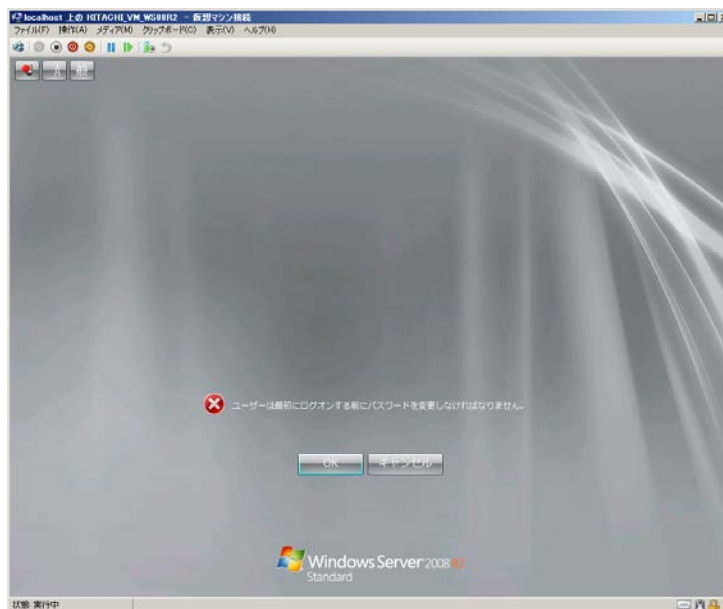
- ④ プロダクトキー入力画面が表示されますので、ライセンス証書記載のプロダクトキーを入力して**【次へ】**ボタンをクリックします。



- ⑤ ライセンス契約画面が表示されますので、契約内容をよく読んでから「**ライセンス条項に同意します**」チェックボックスをオンにして、**〔開始〕** ボタンをクリックします。



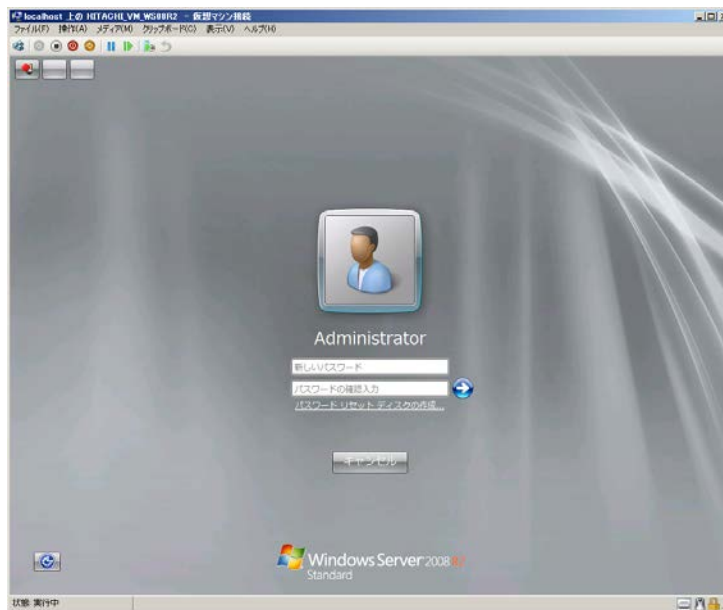
- ⑥ Administratorのパスワード変更を要求する画面が表示されますので、**〔OK〕** ボタンをクリックします。



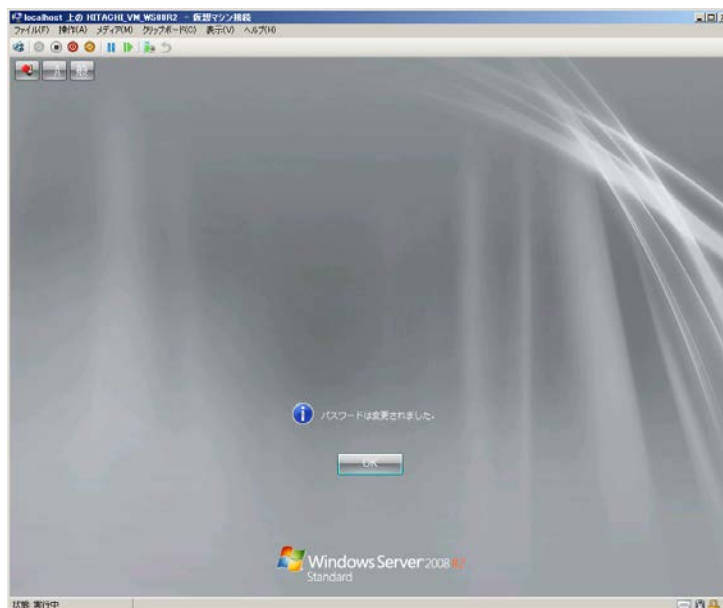
- ⑦ パスワードの入力画面が表示されますので、**【新しいパスワード】** および **【パスワードの確認入力】** にパスワードを入力して **【Enter】** キーを押下するか **【→】** をクリックします。

なお、設定するパスワードは以下の条件を満たす必要があります。

- ・6文字以上であること。
- ・半角英文字の大文字および小文字、数字、記号の4種類から3種類を使用すること。
- ・ユーザーアカウント名やユーザー名として使用されている文字列の一部を使用すること。



- ⑧ パスワード変更完了画面が表示されますので、**【OK】** ボタンをクリックします。
その後、自動的にログオンします。



- ⑨ ログオン後、初期構成タスク画面が表示されますので、画面右上の【×】ボタンをクリックして画面を終了し、次ページ以降のセットアップを続行します。

次回起動時にこの画面を表示しない場合は、「ログオン時にこのウィンドウを表示しない」

チェックボックスをオンにして、画面右上の【×】ボタンをクリックして画面を終了します。

2. 7 Windowsのライセンス認証

仮想マシンにインストールされているゲストOS（Windows Server® 2008 R2, Standard Edition）にはプロダクトアクティベーションと呼ばれる不正コピー防止技術が実装されており、ユーザーはWindows Server® 2008 R2, Standard Editionを使用するにあたりマイクロソフト社に対してライセンス認証手続きをする必要があります。ライセンス認証は電話で行う方法とインターネット経由で行う方法がありますので、以下に示すいずれかの方法で実施してください。

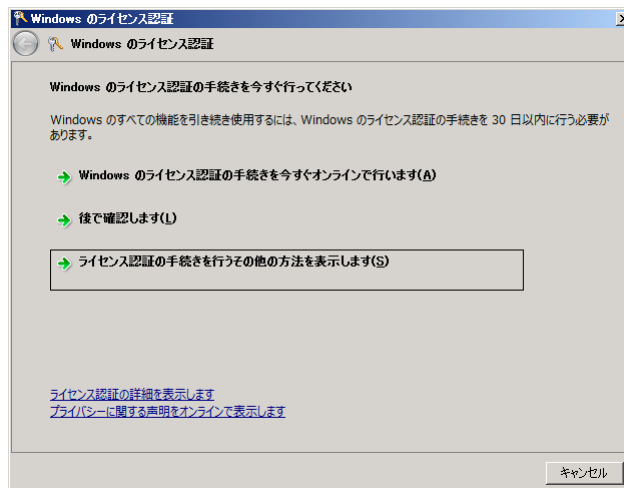
（1）電話にてライセンス認証する場合

- ① コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- ③ [システムとセキュリティ] をクリックし、[システム] をクリックします。
- ④ 「Windows ライセンス認証」の「自動ライセンス認証が始まるまで3日です。今すぐ行う場合はここをクリックしてください」をクリックします。

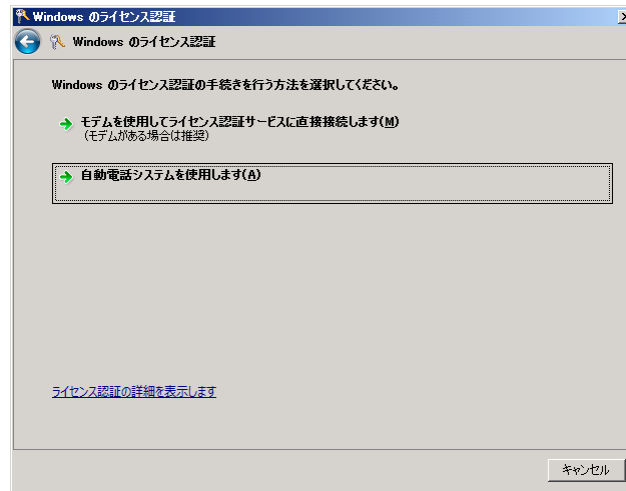
（下線部の内容はライセンスの状態により変わります）



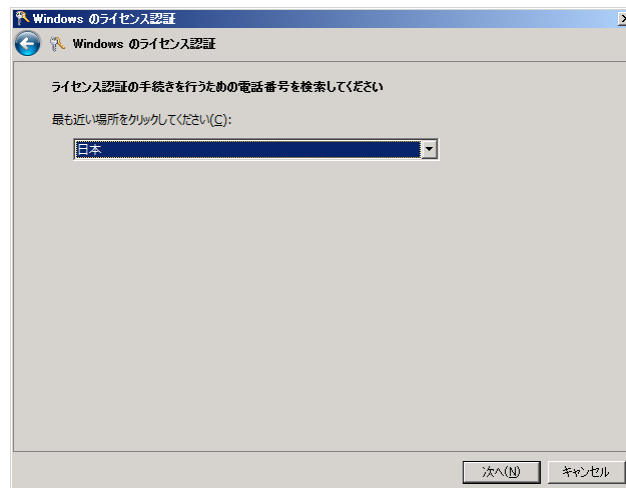
- ⑤ 「ライセンス認証の手続きを行うその他の方法を表示します」をクリックします。



- ⑥ 「自動電話システムを使用します」をクリックします。



- ⑦ 最も近い場所をクリックしてくださいと表示されているプルダウンメニューより「日本」を選択して、[次へ] ボタンをクリックします。



第2章 仮想環境を構築する場合のセットアップ手順

- ⑧ ステップ1にライセンス認証専用窓口の電話番号が表示されますので、いずれかの電話番号に電話を掛けます。

Windows のライセンス認証

Windows のライセンス認証

Windows のライセンス認証の手続きを今すぐ行ってください

ステップ 1: 確認 ID を入手するには、次の電話番号に電話します:

(無料電話番号)

(有料電話番号)

(SMS)

ステップ 2: 電話システムの指示に従って、インストール ID を入力します:

1 2 3 4 5 6 7 8 9

ステップ 3: 電話システムによって指定された確認 ID を入力します(3):

A B C D E F G H

次へ(H) キャンセル

- ⑨ 音声の案内に従い、ステップ2に記載されているインストールIDをプッシュで入力します。認証手続き完了後、確認IDが応答されますので本IDをメモします。

Windows のライセンス認証

Windows のライセンス認証

Windows のライセンス認証の手続きを今すぐ行ってください

ステップ 1: 確認 ID を入手するには、次の電話番号に電話します:

(無料電話番号)

(有料電話番号)

(SMS)

ステップ 2: 電話システムの指示に従って、インストール ID を入力します:

1 2 3 4 5 6 7 8 9

ステップ 3: 電話システムによって指定された確認 ID を入力します(3):

A B C D E F G H

次へ(H) キャンセル

- ⑩ 上記⑨で受け取った確認IDを入力して、**「次へ」** ボタンをクリックします。

Windows のライセンス認証

Windows のライセンス認証の手続きを今すぐ行ってください

ステップ 1: 確認 ID を入手するには、次の電話番号に電話します:

(無料電話番号)

(有料電話番号)

(SMS)

ステップ 2: 電話システムの指示に従って、インストール ID を入力します:

1 2 3 4 5 6 7 8 9

ステップ 3: 電話システムによって指定された確認 ID を入力します(3):

A	B	C	D	E	F	G	H

次へ(N) キャンセル

- ⑪ ライセンス認証に成功しましたの画面が表示されますので、**「閉じる」** ボタンをクリックして画面を終了してください。

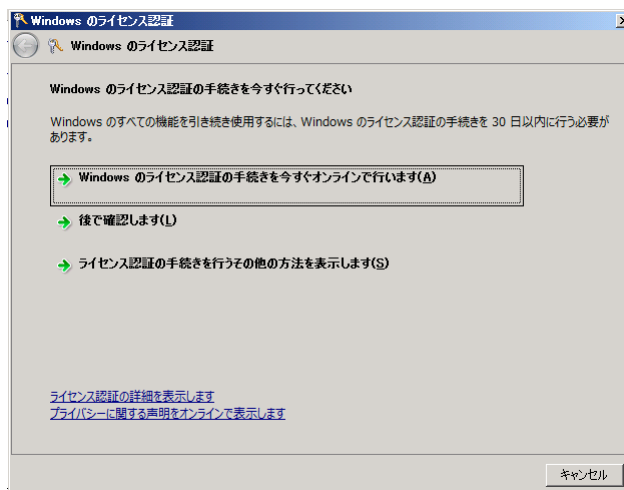
これで電話によるライセンス認証は完了です。

(2) インターネット経由でライセンス認証する場合

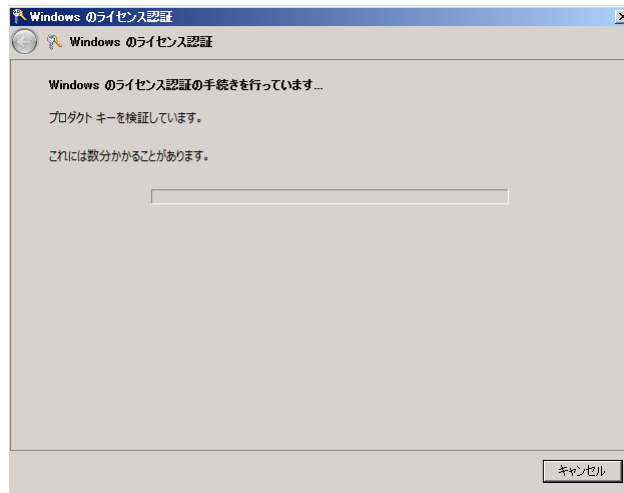
- ① コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- ③ [システムとセキュリティ] をクリックし、[システム] をクリックします。
- ④ 「Windows ライセンス認証」の「自動ライセンス認証が始まるまで3日です。今すぐ行う場合はここをクリックしてください」をクリックします。
(下線部の内容はライセンスの状態により変わります)



- ⑤ 「Windowsのライセンス認証の手続きを今すぐオンラインで行います」をクリックします。



- ⑥ プロダクトキーの検証をしていますの画面が表示され、ライセンスの認証が実行されます。



- ⑦ ライセンス認証に成功しましたの画面が表示されますので、**「閉じる」ボタン**をクリックして画面を終了してください。
これでインターネット経由によるライセンス認証は完了です。

このページは白紙です。

第3章 新たにシステムを構築する場合の新規セットアップ手順

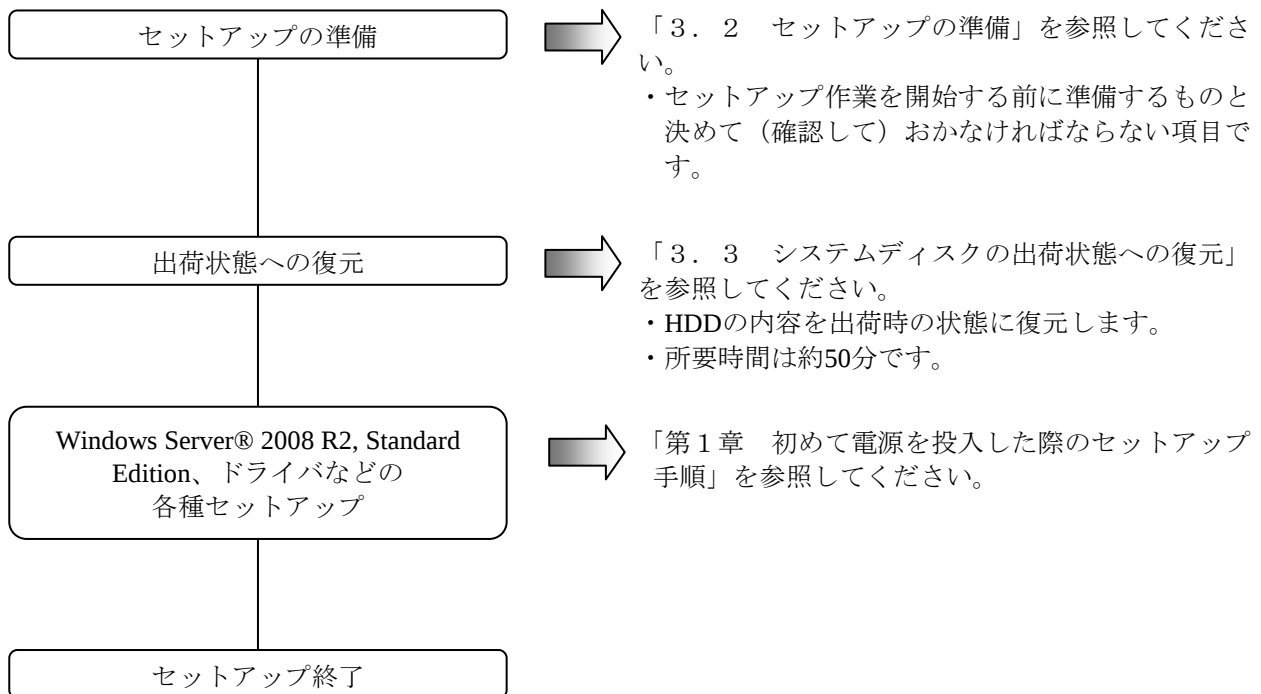
この章では、以下のセットアップ手順について説明します。

- ・構築してあるシステムを破棄して新たにシステムを構築する場合の新規セットアップ手順

3. 1 新規セットアップ手順の概要

この節では、現在構築してあるシステムを破棄して新規にシステムを構築する際の新規セットアップ手順の概要を説明します。リカバリDVDを使用してシステムディスク（HDDドライブベイ1に搭載されているHDD）の内容を出荷時の状態に復元した後は、「第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順」に記載の手順に従って、セットアップを実施してください。

以下にセットアップ手順の概略フローを示します。



留意事項

リカバリDVDは、出荷時のハードウェア構成で作成したイメージファイルを保存したDVDです。そのため、ハードウェア構成が出荷時と異なる場合、復元作業を行ってもオペレーティングシステムが正常に起動しない可能性があります。リカバリDVDを使用した復元は、外部記憶装置をすべて取り外し、出荷時のハードウェア構成で行ってください。

また、リカバリDVDを使用した場合にはシステムディスクのすべてのデータが消去されますので、必要に応じて事前にバックアップを行ってください。

留意事項

HF-W7500モデル30のAモデル（SATA-HDDモデル）において、HDDドライブベイ2にHDDが搭載された状態でリカバリDVDを使用して復旧作業を行った場合、DVDドライブのドライブ文字が出荷時と異なることがあります。

このような場合、必要に応じてセットアップ終了後にドライブ文字の変更を行ってください。

3. 2 セットアップの準備

下記の項目は、セットアップ作業中に必要となる項目です。セットアップ作業を開始する前にあらかじめ決めて（確認して）おいてください。

項目	内容
ライセンス証書	HF-W本体にライセンス証書が貼り付いていることを確認してください。
Administratorのパスワード	Administratorのパスワード 設定後に変更できます。
ネットワークアドレス	IPアドレスおよびサブネットマスク 設定後に変更できます。

下記は、セットアップ作業開始前にあらかじめ準備しておかなければならないソフトウェアです。
これは、HF-Wに同梱していますので、セットアップ作業を開始する前に必ず準備してください。

HF-W専用リカバリ DVD	HITACHI <u>HJ-75307ESJ*</u> Product Recovery DVD Containing Windows Server(R) 2008 R2, Standard Edition Embedded SP1 (下線部にはご購入頂いたHF-W7500モデル30の型式が記載されています。)
-------------------	--

3.3 システムディスクの出荷状態への復元

以下の手順に従い、リカバリDVDを使用してHF-W7500モデル30のシステムディスクを出荷時の状態に復元します。

- ① HF-Wの電源を入れ、HF-Wに同梱の「HITACHI HJ-75307ESJ* Product Recovery DVD」をDVDドライブにセットします（下線部には、ご購入頂いたHF-W7500モデル30の型式が記載されています。以降の手順において同様の記載がされている部分に関しましては、ご購入のHF-W7500モデル30の型式に読み替えてください）。
- ② リカバリDVDから起動し、以下の認証メッセージが表示されます。

```
*****
Confirmation

"HITACHI HJ-75307ESJ* Product Recovery DVD" is
only used for HJ-75307ESJ*.
Is this computer HJ-75307ESJ*?

*****

(Yes[y]/No[n]):
```

[n] キーを押した場合は、以下のメッセージが表示され、認証が中断されます。
電源スイッチを押し、HF-Wの電源を切ってください。

```
(Yes[y]/No[n]):n
System recovery process is canceled.
```

- ③ [y] キーを押した場合は、HDD内容の復元開始の確認メッセージが表示されます。

```
*****
Attention

This recovery program deletes all personal data and
your customized configuration settings. It resets
HJ-75307ESJ* to the factory-shipped default values.
Be sure to back up your personal files before you use
this DVD.

*****

continue?
(Yes[y]/No[n]):
```

[n] キーを押した場合は、以下のメッセージが表示され、認証が中断されます。
電源スイッチを押し、HF-Wの電源を切ってください。

```
(Yes[y]/No[n]):n
System recovery process is canceled.
```

- ④ [y] キーを押した場合は、HDD内容を復元するブートパーティション容量変更確認メッセージが表示されます。

```
*****
Attention

This recovery program deletes all personal data and
your customized configuration settings. It resets
HJ-75307ESJ* to the factory-shipped default values.
Be sure to back up your personal files before you use
this DVD.

*****

continue?
(Yes[y]/No[n]):y

Do you change the size of boot partition?
In case of "No", it is set to the default size(NNN MB).
(Yes[y]/No[n]):
```

[n] キーを押した場合は、出荷時と同じ容量（NNN MB）でブートパーティションを復元する確認メッセージが表示されます。

```
(Yes[y]/No[n]):n
Set the boot partition size to NNN MB.

Continue?
(Yes[y]/No[n]):
```

[y] キーを押すとHDD内容の復元が開始され、進捗状況が表示されます（⑥へ）。

[n] キーを押した場合は、以下のメッセージが表示され、ブートパーティション容量変更が中断されます。電源スイッチを押し、HF-Wの電源を切ってください。

```
(Yes[y]/No[n]):n
System recovery process is canceled.
```

- ⑤ ブートパーティション容量変更確認メッセージ (④) で [y] キーを押した場合は、ブートパーティション容量入力メッセージが表示されます。

```
Do you change the size of boot partition?  
In case of "No", it is set to the default size (NNN MB).  
(Yes[y]/No[n]):y  
  
Input the size of boot partition by the megabyte[MB] and press ENTER.  
partition size (MIN-MAX[MB]):
```

入力可能な範囲の最小値 (MIN) と最大値 (MAX) を表示しますので、ブートパーティション容量をMB単位で入力し、[Enter] キーを押します。
ブートパーティション容量を入力すると、入力確認メッセージが表示されます。

```
partition size (MIN-MAX[MB]):20000  
  
Set the boot partition size to 20000 MB.  
  
Continue?  
(Yes[y]/No[n]):
```

[y] キーを押すとHDD内容の復元が開始され、進捗状況が表示されます (⑥へ)。
[n] キーを押した場合は、以下のメッセージが表示され、ブートパーティション容量変更が中断されます。電源スイッチを押し、HF-Wの電源を切ってください。

```
(Yes[y]/No[n]):n  
  
System recovery process is canceled.
```

入力可能な範囲外の数値を入力した場合、以下のメッセージが表示されますので、数値を再入力します。

```
Input error.  
  
Input the size of boot partition by the megabyte[MB] and press ENTER.  
partition size (MIN-MAX[MB]):
```

- ⑥ [y] キーを押した場合は、HDD内容の復元が開始され、進捗状況が表示されます。

```
HJ-75307ESJ* system recovery START.  
xx%
```

- ⑦ リカバリDVDが複数枚組の場合、リカバリDVDの1枚目のHDD内容の復元が完了すると、以下のメッセージが表示されます。1枚目をDVDドライブから取り出し、次のリカバリDVDをDVDドライブにセットします。

```
HJ-75307ESJ* system recovery START.  
"Disc X1/Y1" COMPLETED.  
  
Remove "HITACHI HJ-75307ESJ* Product Recovery DVD Disc X1/Y1" and  
Insert "Disc X2/Y2".  
  
Press [Enter].
```

下線部“X1/Y1”には現在セットされているリカバリDVDのディスク番号が、下線部“X2/Y2”には次にセットするリカバリDVDのディスク番号が表示されます。

- ⑧ [Enter]キーを押すとHDD内容の復元が再開され、再び進捗状況が表示されます。

```
HJ-75307ESJ* system recovery CONTINUE.  
xx%
```

- ⑨ 上記⑦から⑧をリカバリDVD枚数分 繰り返します。
- ⑩ リカバリDVDによるHDD内容の復元がすべて完了すると、以下のメッセージが表示されます。リカバリDVDをDVDドライブから取り出します。

```
HJ-75307ESJ* system recovery CONTINUE.  
100%  
  
COMPLETED.  
  
Remove "HITACHI HJ-75307ESJ* Product Recovery DVD"  
from the DVD drive and restart HJ-75307ESJ*.
```

- ⑪ 電源スイッチを押してHF-Wの電源を切り、再びHF-Wの電源スイッチを押して電源を入れます。

3. 4 Windows Server® 2008 R2, Standard Edition、画面の設定などの各種セットアップ

リカバリDVDによって、HF-W7500モデル30のシステムディスクは出荷時の状態に復元されました。これ以降は「第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順」に記載の手順に従い、セットアップを実施してください。

第4章 注意事項

4. 1 第3者ブランド名での製品出荷について

機器に組み込むなどによって、この製品を弊社の装置名以外で販売される場合には、弊社に対し、その装置名の届け出をしていただく必要があります。なお、届け出は最終使用者への出荷開始後でもかまいません。弊社営業担当または弊社社員までご連絡ください。

このページは白紙です。